



日本平滑筋学会ニュースレター

No.4

2010.5.15

発行所: 日本平滑筋学会事務局
 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1
 東北大学病院胃腸外科内
 TEL:022-717-7205, FAX: 022-717-7209
 E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp
 HP: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmr>
 発行責任者: 佐々木 巖
 編集者: 高木 都 印刷: 笹気出版印刷

臨床と基礎のコラボレーション

—第 52 回総会(仙台: 7/1~2)は学会の原点を目指す・佐々木会長—

7/1-2 開催の第 52 回総会は、佐々木 巖会長のもと「基礎と臨床のコラボレーション」をテーマに準備が進んでいます。佐々木会長に総会への抱負を伺いました。

第 52 回日本平滑筋学会総会に向けて

第 52 回総会会長 東北大学大学院・生体調節外科学分野・佐々木 巖

来る平成 22 年 7 月 1 日~2 日の 2 日間、仙台市の情報産業プラザ(通称 アエル・ビル)で第 52 回日本平滑筋学会総会を開催させていただきます。第一回学会総会を 3 代目教授の榎 哲夫先生が仙台市で主催されてから、我々外科教室が主催させて頂くのは半世紀以上のことで鋭意準備中であります。

今回の学会のテーマは「基礎と臨床のコラボレーション」といたしました。素晴らしい基礎の成果を臨床に活かす、そして反対に臨床の現場から発生する様々な課題を基礎に提供することは本学会の目指す所であり、原点でもあると考えます。

プログラム内容について評議員の皆様はシンポ・パネル等の主題候補をアンケート調査させて頂き、ご提案の中から本学会の主題は「消化管機能研究における standard and new technique」「平滑筋におけるシグナル伝達研究のカッティングエッジ」「炎症と平滑筋(血管、気管、消化管)」「過活動膀胱をめぐって」の 4 セッションを予定しました。また、特別講演には前理事長の本郷道夫教授にお願いしております。初日夕方には情報交換の場として全員懇親会も予定しております。さらに、従来の論文発表を対象とした栗山賞に加え、昨年からの総会時の学会発表において優秀演題を選出し表彰することになり、今年も学会終了時に表彰を予定しております。

今回は締め切りまでに 50 題とほぼ昨年と同数の演題応募を頂きました。多くの皆様のご参会を心から御持ちしております。

Contents page

52 回総会に向けて	1
栗山 照賞について	1
入会のお誘い	1
リレーエッセイ第 3 回	
堀 正敏	2

日本平滑筋学会入会のお誘い

本会は平滑筋に関わる基礎・臨床研究者が集う日本医学学会所属学会です。英文機関誌 Journal of Smooth Muscle Research は“IF 相当値”が 3 前後で国際的にも評価されています。学術集会では優秀発表を学会賞として表彰しています。皆様のご入会をお待ち申し上げます(E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp)。

栗山 照賞について —平成 22 年度受賞者紹介および平成 23 年度応募のお誘い— 鈴木 光

栗山照賞は故・栗山照先生の御遺徳を偲び、若手平滑筋研究者育成を目的として平成 17 年に日本平滑筋学会で設置され、これまでに 5 年にわたり受賞者を選出してきました。基本的には基礎系研究者、臨床系研究者、韓国平滑筋学会会員からそれぞれ 1 名を毎年選出し、表彰しております。栗山照賞への応募者は日本平滑筋学会会員に限定せず、平滑筋研究者なら誰でも応募できますが、受賞の条件として、受賞後は日本平滑筋学会に入会していただくこと、毎年開催される総会で受賞講演を行っていただくこと、Journal of Smooth Muscle Research に受賞記念総説を執筆すること、となっております。ところが、多くの受賞者が「受賞対象となった研究の記憶が鮮明なうちに記念講演をしたかった」と感想を言われたので、平成 22 年に選考委員会で協議して規約を変更し、半年ほど応募次期を繰り上げて、受賞した年に記念講演と総説執筆をしていただくことになりました(詳細は日本平滑筋学会雑誌第 13 巻 2・3 号掲載)。この新規約は平成 22 年度から始まりましたが、この年は臨床系研究者の応募が無かったので、以下のように基礎系研究者と韓国平滑筋学会推薦者の 2 名が受賞者に決定しました。

基礎系研究者: 鬼頭 佳彦 氏(名古屋市立大学大学院医学研究科細胞生理学分野)

韓国平滑筋学会推薦者: Eun Bok Baek 氏(In vitro Toxicology, Drug Development, LG Life Sciences, Daejeon, Korea)

平成 23 年度栗山照賞を以下の要領で公募します。詳細な応募条件ならびに必要な書類は日本平滑筋学会雑誌第 13 巻第 2 号(平成 22 年 8 月刊行予定)に掲載しますが、日本平滑筋学会ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmr/index.html>)から取ることも出来ます。

応募時期: 平成 22 年 9 月~12 月(平成 22 年 12 月 31 日消印有効)

受賞副賞: 10 万円

応募書類送付先: 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1 番地(郵便番号 467-8601)

名古屋市立大学医学部細胞生理学教室 鈴木 光 宛

栗山照賞の応募資格は 40 歳未満の平滑筋研究者です。若手研究者の応募を期待いたします。

リレーエッセイ第3回 「今夜は眠れぬ一夜、、、？」

東京大学 大学院農学生命科学研究科 獣医薬理学教室 堀 正敏

このリレーエッセイが回ってきて「時間を見つけて追々書くか」と高を括りつつ、暇を見つけてはオリンピックの放映を見ていた。「ああ！上村愛子！かわいそう！」、「神風は葛西のジャンプに見方せず！無念！」（その他多数、字数の関係で略）などと涙ぐんだり吠えているうちに、気づいたらエッセイ原稿締め切り日！！慌てて自室に立てこもり、えっちら書きはじめた。

さて、私というニンゲンはそもそも楽観的な性格である。今、思い起こすとこの世界に入ったのも、やはりとてもいい加減なきっかけであった。学生当時野球部に所属していた私は、「獣医薬理学は苦手科目だな。教授もいかにも厳しそうだし、ここは一つ、単位取得のために薬理の室員になっておくか。」と獣医薬理学教室に入室した。入室後も講義中に恩師である浦川紀元先生（東京大学名誉教授）に、「堀君、講義に野球のユニホーム姿で出席してよいなら、相撲部はまわし姿で講義に出席してよいですね！」と他の学生の前で冷たく追い出されたりもしたが、定期試験では前日徹夜で勉強し完璧な答案を書いて褒められたりもした（たまたま、ヤマが当たっただけだが、、、）。そして右も左もわからないまま、先輩の行う平滑筋の実験を手伝い始めた。

初めて実験を任されて論文を出したのは、海産毒パリトキシンの腸管平滑筋における K^+ efflux 促進作用についてであった。自分で必至に英語で論文を書きつつも、元来いい加減な性格であるので、今思えば一体何を目的にどんな思想でこの研究を行ったのかまるで解っていなかった。それでもこの研究が英文雑誌として掲載された時の喜びは今も良く憶えている。しかし、掲載後に図中に誤字があったのに気づいて、さすがにこの時は自分のいい加減な性格を呪ったものだ。今でも別刷りを見ると恥ずかしい。

調子に乗りやすい性格でもある私は、友人たちの動物病院開業の強い勧めをよそに、鼻息荒く大学院へと進学した。大学院時代は、日夜研究と×××（想像にお任せします）に明け暮れ、週の半分は自宅にも帰らず大学に泊まって実験をしていた。教授室には寝心地の良いソファがあったので、時折こっそりベット代わりにしていた。ところがある時寝過ごしてしまい、大学に出勤してきた浦川先生に見つかり、「堀君、君はいつから教授になったのですか！」とまたも静かにののしられた。今書いていても冷や汗が出る思い出である。

最終学年も晩夏となり、就職や学位論文仕上げと気合いの乗った時期に、「堀君、大学院は中退してしまっ、秋から東大・獣医薬理の唐木君のところで平滑筋研究を続けませんか」と言われびっくり！学位と決まっていた就職面者を棒に振るわけで、両親も反対！それでも二つ返事で「はい。わかりました。行きます！」と即答していた。やはり、元来楽道家なんですね。

東大の助手になってからは、先代教授の唐木英明先生や現教授の尾崎博先生はもちろん、周囲の若い大学院生や助手仲間らに育てられ、留学先のテキサス大医学部生理学教室の JT Stull 博士にみっちり仕込まれて、その後も多くの人に支えられ続け、最近漸く何となく一人前の平滑筋研究者になってきたのかな、と感じるこの頃です。私の周囲の方々は、皆根気のある方たちばかりで助かります！平滑筋学会は高名な平滑筋研究の先生方と直にお話するチャンスが多い、私にとっては大切な学会で、この学会でも多くの先生方に育てられてきた私である。さてさて、こんないい加減な楽道家が、これから良い後輩を育てて行くことができるだろうか？う～む。。。今夜は眠れそうにないなあ、、、と思いつつもきっとスヤスヤ寝てしまう楽道家である（失笑）。

